



英文原本作成日 : 2000年10月4日
最終英文改訂版作成日 : 2012年4月25日
日本文訳日 : 2015年5月1日
日本文訳担当 : 株式会社 シー・エス・シー

製品安全データシート

パルサーlub PL1多目的グリース

1. 製品及び会社情報の要約

物質若しくは混合物の識別

製品

製品名称 : パルサーlub PL1 多目的グリース
製品概要 : パルサーlub自動給油装置専用開発された潤滑グリース
製品コード : PL1
使用用途 : 多目的な用途の為の潤滑グリース

会社/企業の識別

供給者 : KLT Co., Ltd.
597-2, Geumseung-ri, Tanhyeon-nyeon, Paju-si
Gyeonggi-do, Republic of Korea

Tel. : +82 (0)31 942 8488
Fax : +82 (0)31 942 8485

本製品安全データシートにjostev89@pulsarlube.com
関する責任者のe-mail

緊急連絡先電話番号 +82 (0)2 2083 8488

2. 危険有害性の要約

分類 区分なし
欧州規制 1999/45/EC とその修正条項によれば、製品は危険物に区分されない。

3. 組成、成分情報

成分/調合 : ミネラルオイル、リチウム複合石鹼と添加剤の混合物

成分名	CAS#	濃度 (%)	EC番号	分類
基油(パラフィン系石油オイル)	8012-95-1	75.0~85.0	232-384-2	区分なし
リチウム複合石鹼	独自品	15.0~16.0	-	
P, P'-ジオクチルジフェニルアミン	101-67-7	0.5~1.0	202-965-5	
2,5-ジメルカプト-1,3,4-チアジアゾール	1072-71-5	0.5~1.0	214-014-1	

供給者の現在の知識では、これに追加する既存構成物質、健康、若しくは、環境に有害な物質はなく、この章に記載する事項はない。

4. 応急処置

応急処置

吸入した場合	適用されない
飲み込んだ場合	水で口を洗浄する。被害者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休ませる。飲み込んでしまい、意識の有る場合には少量の水を飲ませる。医師の指示なしに嘔吐させずに、医師の診断を受ける。
眼に入った場合	多量の水で眼を洗浄し、必要に応じて上下のまぶたを開いて洗浄する。コンタクトレンズを使用している場合は、取り外して確認し、炎症がある場合は医師の診断を受ける。
皮膚に付着した場合	石鹼と水、若しくは適正な皮膚洗浄剤で完全に付着した部分を洗浄する。汚染された衣類と靴を脱がせなさい。症状がある場合は、医師の診断を受ける。
内科医への注意	症状を治療する。大量に摂取したり、吸引した場合は、毒物処理専門医と連絡をとる。

健康への影響、症状に関する詳細情報は、第11章を参照。

5. 火災時の処置

消火剤	適切な消火剤：水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、二酸化炭素消火剤 不適切な消火剤：多量の棒状の水噴射
特別な暴露の危険	火災、若しくは、高熱の場合、圧力が上昇し容器が破裂する可能性がある。火災が発生した場合には、その場所の周辺から全ての作業員を直ちに退去させること。いかなる人的危険を伴うことや適切な訓練をうけずに行動してはならない。
燃焼の生産物	酸化炭素(CO, CO ₂)、窒素酸化物(Nox)、硫黄酸化物(Sox)、硫化水素(H ₂ S)、酸化カルシウム(CaOx)、酸化リン(POx)、炭化水素、煤煙、不完全燃焼による刺激性気体
消火の為の特別保護具	消火作業を行う者は、適切な保護具を着用し、陽圧モードで作動するフルフェイス型の自給式呼吸器具(SCBA)を着用しなければならない。消火作業を行う者の衣類(ヘルメット、防護靴、防護手袋を含む)は、化学物質事故に対する基本的な防護能力を備えた欧州規格 EN 469 に適合したものであること。
追加情報	加熱、若しくは発火させない為に、容器を加圧、切断、溶接、蠟付け、半田付け、穴あけ、研磨、日光にさらしたりしないこと。

6. 漏出時の処置

人体に対する注意事項	人的危険を伴うことや、適切な訓練をうけずに行動してはならない。周辺から退避させ不要な人や防具を装着していない人を立ち入らせない。流出物の中を歩いたり、触ったりしてはならない。適切な防護用具を装着すること。
環境に対する注意事項	流出物の飛散を防止し、土壌、地下水、地表水、下水管との接触と流入を防止する。物質が環境汚染(下水、上水、土壌、空気)を引き起こした場合には関連機関に報告する。
流出管理 陸上での漏出	危険が無いのであれば、漏出を止める。廃棄、若しくは、再利用の為に

適切な容器に流出物をすくい入れる。

海上での漏出

危険が無いのであれば、漏出を止める。直ちにオイルフェンスにより、流出物を封じ込めること。他の輸送業者にも警告を行う。表面からすくい取る。

海上での漏出、及び陸上での漏出についての記載内容は、この物質の最も起こりそうな漏出シナリオに基づいている。しかし、地理的条件、風向き、気温、海上での漏出の場合は波、流れの方向、速度によって取るべき行動がおおきな影響を受けるかも知れない。こういった場合、その地方の専門家に相談するべきである。

注：その地方の規制により、取るべき行動が指示、あるいは制限されていることがある。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

適切な防護具を着用のこと。
この物質の取扱い、保管、使用の区域では、飲食、喫煙は禁止される。作業者は、飲食、喫煙の前に、手と顔を洗うこと。食堂に入る前に、汚染された衣類と防護具を取り去ること。

保管

その地方の規制に基づいて保管のこと。
直射日光と乾燥から保護された純正の容器に入れ、涼しく、通気の良い場所で、不適合な材料(第10章参照)と食物・飲料から離して保管する。容器は使用開始まで確実に密閉する。
容器を開封した場合には、漏れが発生しない様に上向きにして注意深く取り出すこと。内容物の記載の無い容器で保管しないこと。環境汚染を防止するために、適切な密閉を行うこと。

推奨する容器

純正の容器を使用のこと。

8. 暴露防止及び保護処置

暴露の限界値

成分名	種類	職業上の暴露限界	備考
基油 (パラフィン系石油オイル)	ごく少量の 吸引可能	ACGIH (TLV) & OSHA (PEL) TWA: 5 mg/m ³ , 8時間	鉱物油

暴露管理

職業上の暴露管理

特別な換気設備は不要。
一般的な良い換気装置であれば、空気中の汚染物質に対する作業者の暴露は十分に管理できる。
もし、製品が暴露限界の限界を含有している場合は、作業者の暴露量が推奨値、若しくは法定限度以下の暴露量になる様、囲い込み、排気装置、その他の手段で管理すること。

衛生上の対策

化学製品を取扱った後、食事、喫煙、トイレに行く前とその日の作業を終了したら、前腕と顔を十分に洗うこと。汚染された可能性の有る衣類は、適切な技術で除去すること。汚染された衣類は、再使用前に洗濯すること。洗眼場所、シャワールームを作業者詰所の近くに設置すること。

呼吸器の保護具

もし、必要との予想がある場合には、認定を受けた空気清浄機、空気供給型呼吸器を正しく使用すること。呼吸器の選択は、分かっているか予測される暴露のレベル、製品の危険性、選択された呼吸器の安全な使用限界による。
推奨：有機蒸気フィルター

手の保護具	化学製品を取り扱う時、もし、必要との予測がある場合には、認定を受けた耐薬品性で不浸透性の手袋を常に着用すること。 推奨品: ネオプレン、ニトリル、ポリビニールアルコール、バイトン
眼の保護具	もし、必要との予測がある場合には、認定を受けた保護眼鏡を液体の飛散、蒸気、粉塵を防ぐために着用すること。
皮膚の保護具	作業者の体の保護具は、この製品を取扱う前に、専門家に認定を受けたものが選択されなければならない。
環境暴露管理	換気装置、生産設備からの排気が、環境保護法の要求に合致しているかチェックし、確実にすること。集塵機、フィルター、生産設備の改造には、時として許容レベルまで下げる必要がある。

9. 物理的及び化学的性質

一般情報

外見

物理的状态	ペースト(ネバネバ、滑らか、半固体)
色	明るい茶色
臭気	特有(低刺激性の様な)

健康、安全、及び環境に関する重要な情報

比重	約0.89 g/cm ³ @ 20°C
水溶性	不溶解性
着火温度	データ無し
引火点	基油 : >250°C [クリーブランド式]
爆発下限	データ無し
爆発上限	データ無し
蒸気圧	データ無し
粘度	データ無し
流動点	データ無し
ちょう度	300 (60 ストークス) @ 25°C
滴点	>220°C

10. 安定性及び反応性

化学安定性	通常状態で安定
避けるべき条件	過剰な加熱 高着火エネルギー源
避けるべき物質	酸化剤、酸、アルカリ、アンモニウム塩、マグネシウム、水素に反応
有害な分解成分	この物質は常温では分解しない
危険有害性反応の可能性	発生しない

11. 有害性情報

重大な健康被害の可能性

吸入した場合	重大な作用や重度の危険有害性は知られていない
飲み込んだ場合	重大な作用や重度の危険有害性は知られていない
皮膚への付着	重大な作用や重度の危険有害性は知られていない
眼への進入	重大な作用や重度の危険有害性は知られていない

重大な毒性

毒性データは、類似の製品から入手した
(構造的に類似した材料のテストデータに基づく)

LD50 Oral Rat > 22000 mg/kg

慢性毒性	重大な作用や重度の危険有害性は知られていない
発がん性	OSHA, NTP, IARCでは、発がん性とは記載されていない
変異原性	重大な作用や重度の危険有害性は知られていない
催奇形性	重大な作用や重度の危険有害性は知られていない
発育毒性	重大な作用や重度の危険有害性は知られていない
生殖毒性	重大な作用や重度の危険有害性は知られていない

注記
過去の経験 皮膚接触は皮膚の炎症、若しくは、皮膚炎を長引かせる

12. 環境影響情報

この情報は、材料、材料の容器、類似の材料の入試可能なデータに基づいた。

環境への影響 重大な作用や重度の危険有害性は知られていない

除去に関する情報(持続性と分解性)
製品は水中で不溶解性
浄水場で機械的に分解されると思われる

生態毒性 水中の毒性は、低い溶解性により発生しそうに無い

環境分布への影響 生態系への被害は、通常の使用では知られていないか想定できない

追加情報 自然環境の中に廃却しないこと

13. 廃棄上の注意

廃棄 廃棄は、現在適用されている法律、条令、及び材料特性に従うこと

廃棄方法 廃棄物の発生は避けるか、あるいは可能な限り少量化するべきである。大量の生産廃棄物を下水管に投棄せず、最適な廃液処理プラントを設置すること。 余剰、及びリサイクルできない製品の廃棄は、許可を受けた廃棄物処理業者を通じて行うこと。 製品、溶液、副生成物は、常に環境保護、廃棄物処理に関する法律に定める要求事項、および、地方自治体の定める要求事項に従わなければならない。

有害廃棄物 供給者の現在の知識では、EU指令 91/689/EECの定義に於いて、この製品は有害廃棄物とは考えてはいない。

14. 輸送上の注意

GGVS / GGVE	非該当
AND / ADNR	非該当
IMDG-Code: e	非該当
ICAO / IATA-DGR	非該当
その他の情報	運送規定の中に危険として分類されていない

15. 適用法令

欧州規格
分類と標示は、欧州指令 67/548/EEC と 1999/45/EC (修正条項含む)に基づき判断され、意図された製品使用に配慮した

リスクについて この製品は、欧州規格に基づいた区分はされていない

他の欧州規格

追加の注意について 製品安全データシートは、職業上の使用者に要求に基づいて提供される

分類と標示は、労働安全衛生法に合致している

分類 危険ではない
安全について 皮膚と眼への付着は回避のこと 火災・爆発の際には、煙を吸い込まないこと 良く換気されている区域でのみ使用のこと

他の国際規格： 既存物質リスト

ALCS 全ての成分は、リストに記載されているか免除されている
DSL この材料の全ての化学物質は、DSLに含まれているか、免除されている
EINECS 全ての成分は、リストに記載されているか免除されている
IECS 現地の事務所に意見を聞くこと
KECL 全ての成分はリストに記載されているか、免除されているか、告知されている
MITI 全ての成分は、リストに記載されているか免除されているENCsのリストに記載されているか、免除されるルールに記載されている
PICCS 現地の事務所に意見を聞くこと
TSCA この材料の全ての化学物質は、TSCAの化学物質登録リストに含まれているか、リストから免除されている

16. その他の情報

データの入手元

下記の中の適用できる部分
EC指令 67/548/EEC, 1999/45/EC, 1907/2006/EC, Notice 220
ARD, RID, IMDGに合致した運送規定

この製品安全データシートの改定履歴

最初の発行 2000年10月4日
1回目の改定 2003年8月13日
2回目の改定 2007年7月20日
3回目の改定 2012年4月25日

注意

ここに記載の情報は、弊社の知り得る限り、正確なものです。 しかしながら、記載されている供給会社、その子会社のどちらも、ここに記す情報の正確性と完璧性については、一切の法的責任を負いません。

材料の適合性に対する最終判断は、ユーザの単独責任となります。 全ての材料には未知の危険が存在している可能性があるので、注意深く使用すること。 ここに特定の危険が記載されていても、それらが起こり得る唯一の危険であるとは保障できません。